

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針  
 政策整理番号 10 豊かな自然環境の保全・創造

政策体系		県民満足度		評価原素									
政策番号	政策名	満足度(政策)		政策評価シート(A)									
		重視度	満足度	政策評価シート(A)	政策評価シート(A)の内容								
					満足度(施策)	施策評価シート(B)の内容							
分野	基本方向	政策	施策番号	施策名		政策評価指標名	指標値達成度	優先度(順位)	優先度(%)	施策の必要性	政策評価シート(A)	政策評価シート(B)	施策・事業展開シート(C)
					1-3-3								
1	自然公園等の優れた自然環境の保全	自然環境が保護されている地域の割合	A	3位		18.6%	中	政策評価シート(B)	おおむね適切	[原関与・事業群設定:おおむね適切]本施策での県の役割は、国の各種交付金事業の事業主体及び自然公園等の指定地域での中心的な関与である。事業群は、自然環境保全における特に重要な地域に係るものであり、全て施策目的を実現するために重要な事業である。 [事業群の有効性:おおむね有効]施策満足度は過去3回にわたり60点でありおおむね有効と判断できる。また、政策評価指標「自然環境が保護されている地域の割合」も目標値を達成しており有効である。 [事業群の効率性:課題有]政策評価指標は目標値を達成しているものの業績指標は横ばいであり効率的とは言えない。なお、栗駒山自然景観修復事業は工事が既に終了し、現在は維持管理補修程度の事業費となっており、事業費に対する業務指標の割合による効率性の判断は難しい。 [総括]上記3点を総合的に検証した結果「おおむね適切」と判断する。			
2	身近な緑の保全・再生・創造			1位		32.9%	大	施策事業展開シート(C)	維持	[施策・事業の方向性] 現在、実施している伊豆沼・内沼環境保全対策事業等を継続して実施するとともに、個別の保全・再生事業として蒲生干潟自然再生事業の18年度実施に向けて事業実施計画の策定や、金華山島の復元対策など、各々の地域の特性に応じた自然環境の保全・再生の施策を積極的に展開する。 近年、希少野生動植物の保護や外来種対策など、新たな課題への対応がもたれている。このような自然環境の保全を巡る社会環境の変化に対応するため、現在の「自然環境保全基本方針」の見直しを行い、17年度中に同方針の改正を予定している。			
3	景観・歴史的環境の保全			5位		7.7%	中						
4	野生動植物の保護			6位		7.1%	中						

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針  
 政策整理番号 10 豊かな自然環境の保全・創造

行政評価委員会政策評価部会の意見	県の対応方針	評価結果
政策評価	政策評価	政策評価
施策評価	施策評価	施策評価
-		
-		
-		
-		
-		

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針  
政策整理番号 10 豊かな自然環境の保全・創造

政策番号		施策体系				県民満足度		評価原素					
分野	基本方向 政策	政策名				満足度(政策)		政策評価シート(A)					
						重視度	満足度	政策評価シート(A)の内容		政策評価シート(B)の内容		政策評価シート(C)の内容	
		施策番号	施策名	政策評価指標名	指標値 達成度	満足度(施策)	優先度 (順位)	優先度 (%)	施策の 必要性	政策評価 シート(B)	政策評価 シート(C)	政策評価 シート(A)の内容	政策評価 シート(B)の内容
1-3-3 (続き)		5	森林の適正な管理	民有林の人工林 間伐実行面積割合	A	2位	20.3%	大	施策評価 シート(B)	おおむね 適切	<p>[県関与・事業群設定:適切]本施策での県の役割は、国との連携を図り、市町村・森林所有者等に対する補助制度の周知及び実施に際しての指導・助言を行うことである。事業群は全てが施策目的を実現するために必要な事業である。</p> <p>[事業群の有効性:おおむね有効]施策満足度は過去3回にわたり50点であり有効とは言えない。一方、政策評価指標「民有林の人工林間伐実行面積割合」は目標値を達成しており有効性を確認できる。また、事業業績も増加傾向にある。</p> <p>[事業群の効率性:おおむね効率的]政策評価指標から効率性が確認されるものの事業業績との関連は直接的ではない。また、豊かな森林づくり推進対策事業は、事業費の減少に対し業績は増加していることからおおむね効率的に実施されていると判断できる。</p> <p>[総括]上記3点を総合的に検証した結果「おおむね適切」と判断する。</p>		
									施策事業 展開 シート (C)	維持	<p>[評価結果から抽出される課題と対応策] 満足度の調査結果には大きな変化は見られないが重視度80との かい離がある。また、政策への期待と充実感が不均衡であるが施 策の優先度が高位置にあることから、一層の推進が必要である。 森林の持つ多面的機能(公益的機能)を發揮させるためには、森 林の適正な管理が必要である。事業1は補助事業として森林所有 者を支援し間伐等の施業を誘導(誘発)するとともに、森林の適正な 管理を促すものである。事業2は特に機能の高い保安林について 機能の維持増進を図るため、県が直接事業を行うものであり、事業 実施のために有効である。また、事業1は森林所有者の負担を伴い ながら実施するものであり、費用面で効率的である。</p> <p>[施策・事業の方向性] ・森林の有する多面的機能の高度發揮を図るため、「間伐等推進 3ヶ年対策事業」を強力に推進していく。</p>		
		6	自然とふれあう場 や機会の提供	みどりとふれあえ る空間の面積(森 林公園等の面積)	B	4位	12.8%	中	施策評価 シート(B)	おおむね 適切	<p>[県関与・事業群設定:おおむね適切]本施策での県の役割は、生 活環境保全林整備事業・みやぎ未来の森整備事業の実施、森林公 園内で観察会や森林林業について解説する人材の育成、自然観 察会・地域づくりの支援である。事業群は施策目的に沿った事業で ある。特に「市民の川づくり支援事業」は、河川に関する様々な市民 団体の活動や河川を題材とした総合学習の支援を実施することによ り、貴重な自然環境である水辺空間にふれる場や機会を提供する ものである。</p> <p>[事業群の有効性:おおむね有効]施策満足度は60 55 55と推 移しおおむね有効と判定する一方、政策評価指標「みどりとふれあ える空間の面積(森林公園等の面積)」は目標値を達成しておらず 有効とは言えない。業績指標や成果指標が設定できず判定が困難 である。</p> <p>[事業群の効率性:課題有]事業の性質上、事業業績や成果の数 値データを設定できるものが少なく効率性が判断できないことから 課題有と判断する。</p> <p>[総括]上記3点を総合的に検証した結果「おおむね適切」と判断す る。</p>		
									施策事業 展開 シート (C)	維持	<p>[施策・事業の方向性] みやぎ未来の森整備事業については、既存取得地の森林など を計画的に整備し、県民の学習・保健増進等に供することが必要で ある。生活環境保全林については、市町村と連携を図りながら計画 的に事業を推進する。また、河川事業については、自然とのふれあ う場や機会の提供を行うために必要なソフト施策であり、今後とも事 業の推進が必要である。</p>		

評価の結果、評価に係る宮城県行政評価委員会の意見及び県の対応方針

政策整理番号 10 豊かな自然環境の保全・創造

行政評価委員会政策評価部会の意見	県の対応方針	評価結果
政策評価	政策評価	政策評価
施策評価	施策評価	施策評価
-		
-		